

TOTO


小便器用排水フランジ(壁掛用)

HP900系、HP900M系、HP901M系、US117系、US118系

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分に説明ください。


安全に関するご注意 (安全のために必ずお守りください)

施工の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお取り付けください。
この説明書では、商品を安全に正しくお取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。

表示	意味
 注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

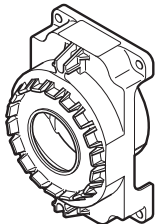

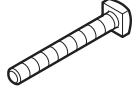
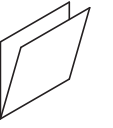
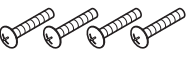


※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。
お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。




	
○は、してはけない「禁止」内容です。 左図は、「禁止」を示します。	●は、必ず実行していただく「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。

注意	
 必ず実行	新設塩ビ管用、新設鉛管用、取替用の用途にあった排水フランジを使用する正常な取り付けができなくなり、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。
	施工後必ず試運転し、各部に水漏れがないことを確認する水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。
	施工の際に使用する部品は付属部品および指定部品を使用する正常な取り付けができなくなる可能性があります。
設置工事は、この説明書に従って確実にを行う故障や水漏れの原因になります。	

同梱部品

■部品があるか、下記を参照して確認してください。
※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

			
排水フランジ 本体 1個	M8ナット 2個 ※1	ボルト 1個	施工説明書 (本紙) 1枚
			
	タッピンねじ 4本	ワッシャー (大) 1枚 ※1	ワッシャー (小) 1枚

	PシールA	PシールB
HP900系用 US117系用 US118系用	 1個	—
HP900M系用 HP901M系用	 1個	 1個

品番	HP900系、US117系、US118系	HP900M系、HP901M系	
用途	新設 VU・VP50塩ビ管用	新設 50鉛管用	既設取替用 ※既設TOTO製壁フランジにかぶせて使用
手順	1 2 5 6 7 へ	1 3 5 6 7 へ	1 4 5 6 7 へ

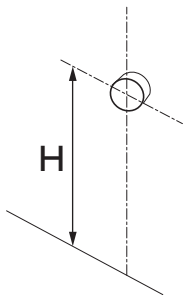
※1 M8ナット1個とワッシャー(大)1枚は小便器固定時に使用します。
取り付け手順は小便器同梱の施工説明書をご確認ください。

取付方法

1 排水フランジの陶器固定用ボルト取り付け

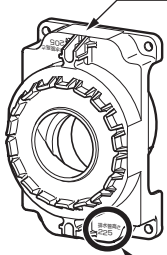
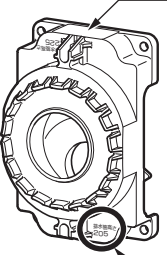
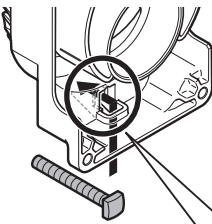
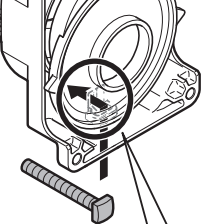
①排水フランジ品番にあった排水管高さであることを確認する。

排水フランジ品番	排水管高さ (H)	
	225mm	205mm
HP900系 US117系 US118系	設置可	設置不可
HP900M系 HP901M系	設置不可	設置可



②ボルトを取り付け、ナットを確実に締め付ける。

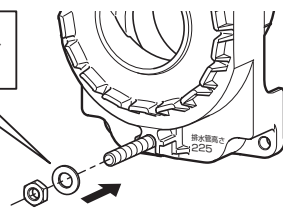
●ボルトの挿入

	HP900系、HP900M系 US117系、US118系	HP901M系
取付方向	 うえ表示ラベル 排水管高さ：225mm	 うえ表示ラベル 排水管高さ：205mm
ボルト挿入方法		

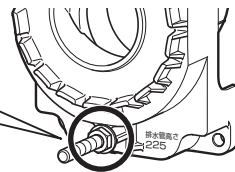
注意 ボルトの頭部が、四角凹部に収まること。
収まらない状態で締め付けると、
破損するおそれがあります。

●ワッシャー(小)、M8ナットの取り付け

ワッシャー(小)を挿入後、
M8ナットを締め付ける

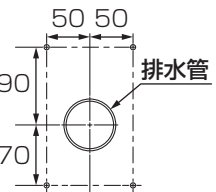
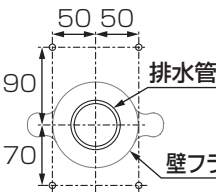
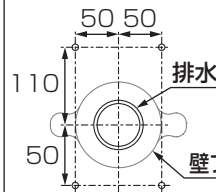


注意 ナットを確実に締め付けること。
締め付け過ぎると破損する
おそれがあります。



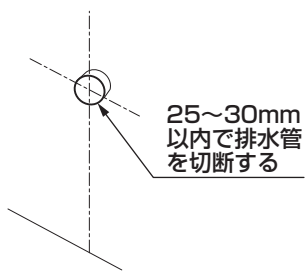
●排水フランジ固定穴位置

(単位：mm)

	HP900系 US117系 US118系	HP900M系	HP901M系
排水フランジ固定穴位置			

2 HP900系、US117系、US118系 (新設VU・VP50塩ビ管用)

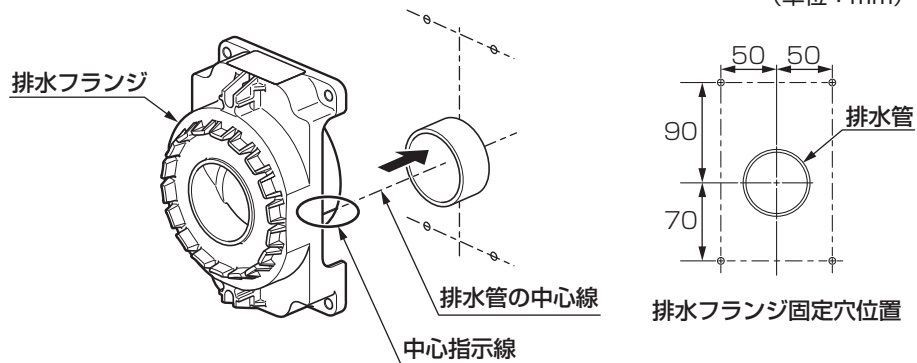
- ①壁仕上げ後、排水管(塩ビ管)の高さが正しいか確かめ、**排水管を壁仕上げ面から25~30mm以内**で切断する。



- ②排水フランジ固定穴位置(下図参照)に従って、**排水フランジの中心指示線を排水管の中心線にあわせて仮設置し、固定穴位置をけがく。**

※けがいた位置にφ3程度の下穴をあけておくと、タッピンねじの締め付けが比較的容易になります。

(単位: mm)

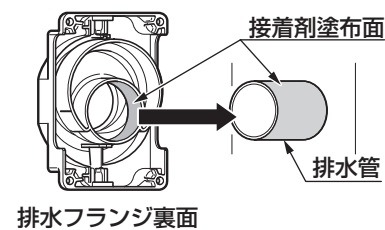


注意

- ・排水管切断面のバリや切りくずを除去する
 - ・排水管の立ち上げ寸法が25mm未満の場合は、立ち上げ直す
 - ・排水ソケット取り付け箇所(幅木など)の段差がある場合は、面一にして取り付ける
- 必ず実行
水濡れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

- ③排水フランジと排水管の接着剤塗布面に塩ビ管用接着剤を塗り、排水フランジの裏面が壁面に当たるまで、排水フランジを押し込む。

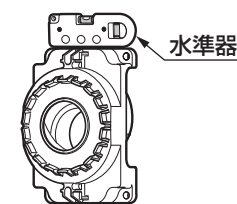
※一度接着しますと手直しができませんのでご注意ください。



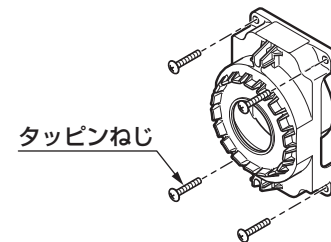
注意

- 必ず実行
接着剤は、排水フランジと排水管の両方に塗布する
接着剤塗布面は、排水フランジ内周、排水管外周です。
片側のみ塗布や塗布箇所を間違えますと、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。また、臭気漏れの原因となります。

- 注意
排水フランジ上面のレベル(水平)を確認する
傾いて取り付けますと小便器が正常に取り付けられない場合があります。
水準器等を用いて、排水フランジ上面が水平になるように取り付けてください。

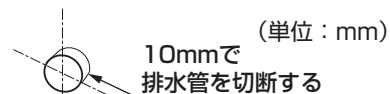


- ④排水フランジの裏面が壁に当たるまで、排水フランジをタッピンねじ(4カ所)で固定する。



3 HP900M系、HP901M系 (新設50鉛管用)

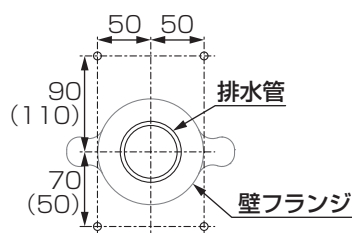
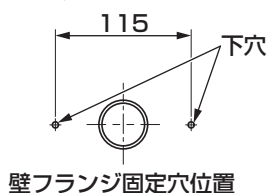
- ①排水管の高さが正しいか確かめ、右図のように**排水管を壁仕上げ面から10mm**で切断する。



- ②壁フランジおよび排水フランジ固定穴位置(右図参照)に従って、排水管の中心線にあわせて固定穴位置をけがく。

※けがいた位置にφ3程度の下穴をあけておくと、タッピンねじの締め付けが比較的容易になります。

※排水管と接続する壁フランジ(T64CW)は別手配となります。

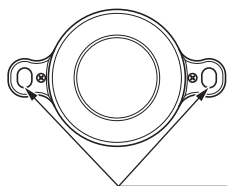


※()内はHP901M系排水フランジ固定穴位置

注意

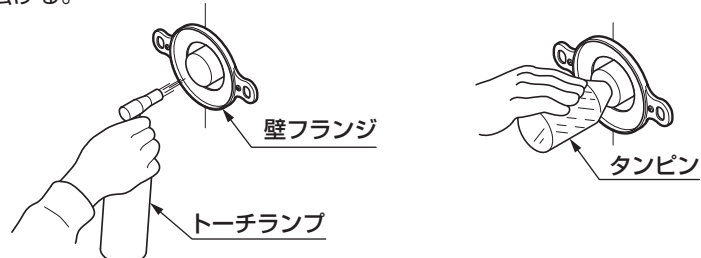
- 禁止
壁フランジ(T64CW)のPシールは使用しない
厚みが足りずシール不良となり、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

- ③壁フランジの中心を排水管の中心線にあわせて壁に固定する。

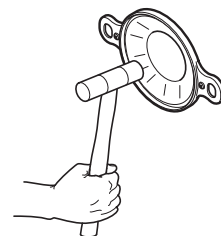


※固定ボルトは取り付けしないでください。取り付けると排水フランジと干渉して取り付けできません。

- ④排水管(鉛管)をトーチランプで加熱し、タンピンなどを使用して排水管(鉛管)の先端を広げる。



- ⑤壁フランジ面に沿わせ、つばの端面まで広げて、排水管(鉛管)の上端をはんだ付けする。

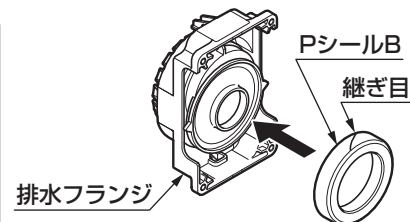


- ⑥排水フランジに同梱されている**PシールB**を排水フランジに取り付ける。

※その他のPシールでは水漏れするおそれがあります。

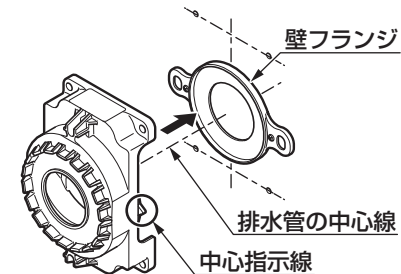
注意

- 必ず実行
・PシールとPシールの取り付け箇所に、水やごみが付着している場合は除去する
・PシールBの継ぎ目は上側にする
水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

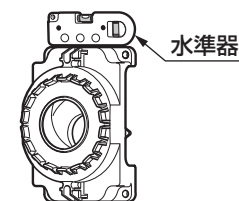


- ⑦排水フランジの中心指示線と排水管の中心線をあわせ、排水フランジの裏面が壁面に当たるまで排水フランジを押し付ける。

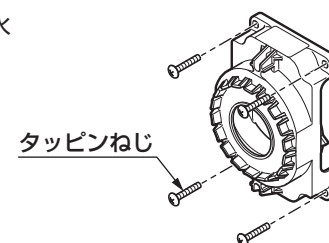
※排水管(鉛管)にPシールBがしっかりなじむように押し付けてください。



- 注意
排水フランジ上面のレベル(水平)を確認する
傾いて取り付けますと小便器が正常に取り付けられない場合があります。
水準器等を用いて、排水フランジ上面が水平になるように取り付けてください。



- ⑧排水フランジの裏面が壁に当たるまで、排水フランジをタッピンねじ(4カ所)で固定する。

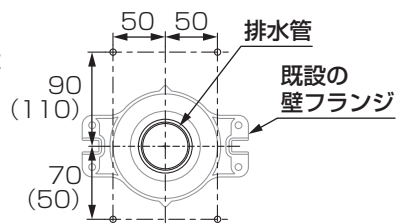


4 HP900M系、HP901M系（既設取換用）

①既設の壁フランジの中心を基準に、排水フランジの固定穴位置(右図参照)をけがく。

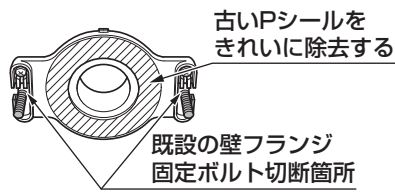
(単位：mm)

※けがいた位置にφ3程度の下穴をあけておくと、タッピンねじの締め付けが 比較的容易になります。



※ () 内はHP901M系排水フランジ固定穴位置

②既設の壁フランジに付着している古いPシールをきれいに除去する。

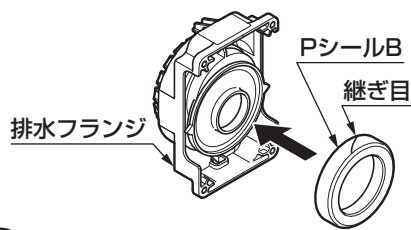


③既設の壁フランジの固定ボルトを取り除く。

※固定ボルトが取り除けない場合は、新しい排水フランジと干渉しないように固定ボルトを切断してください。

④排水フランジに同梱されているPシールBを排水フランジに取り付ける。

※その他のPシールでは水漏れするおそれがあります。



⚠ 注意

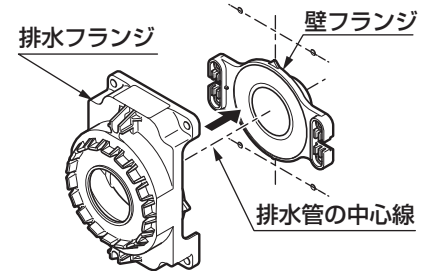


必ず実行

- ・PシールとPシールの取り付け箇所に、水やごみが付着している場合は除去する
 - ・PシールBの継ぎ目は上側にする
- 水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

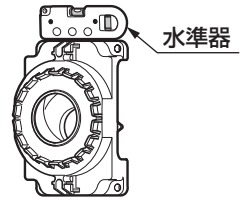
⑤排水フランジの中心指示線と排水管中心線をあわせ、既設の壁フランジの上からかぶせるようにして排水フランジの裏面が壁面に当たるまで排水フランジを押し付ける。

※壁フランジにPシールBがしっかりなじむように押し付けてください。

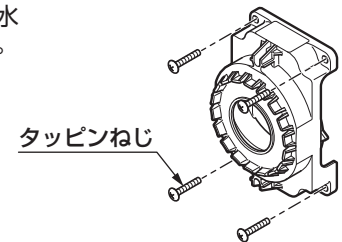


注意 排水フランジ上面のレベル(水平)を確認する

傾いて取り付けますと小便器が正常に取り付けられない場合があります。水準器等を用いて、排水フランジ上面が水平になるように取り付けてください。



⑥排水フランジの裏面が壁に当たるまで、排水フランジをタッピンねじ(4カ所)で固定する。



5 小便器の仮固定

※小便器の仮固定の手順は小便器同梱の施工説明書をご確認ください。

6 PシールAの取り付け

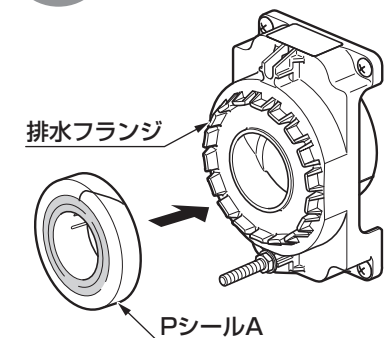
必ず実施

施工方法変更のお知らせ【工事店様へ】

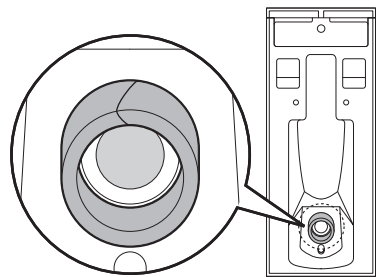
Pシールはフランジ側に取り付けてください

Pシールを小便器側に取り付けると水漏れするおそれがあります。

○ フランジ側に取り付け



✕ 小便器側に取り付け



動画を見る

フランジの施工方法

https://search.toto.jp/contents/navi/construction/wl/move/haisui_flange.htm

※通料がかかります。

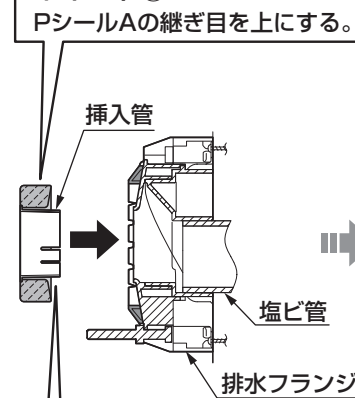
※ご利用環境によって閲覧できない場合があります。



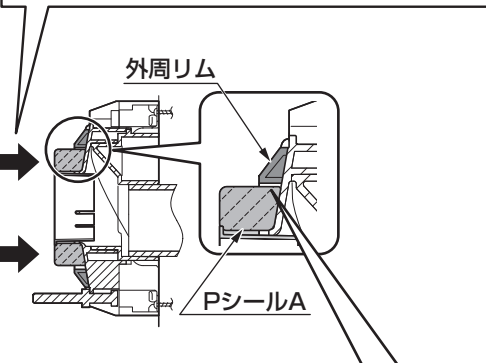
①PシールAを排水フランジの外周リムの内側に置いて挿入管をフランジに差し込む。

<横から見た図>

ポイント① PシールAの継ぎ目を上にする。



ポイント③ PシールA全体を排水フランジに押し付ける。



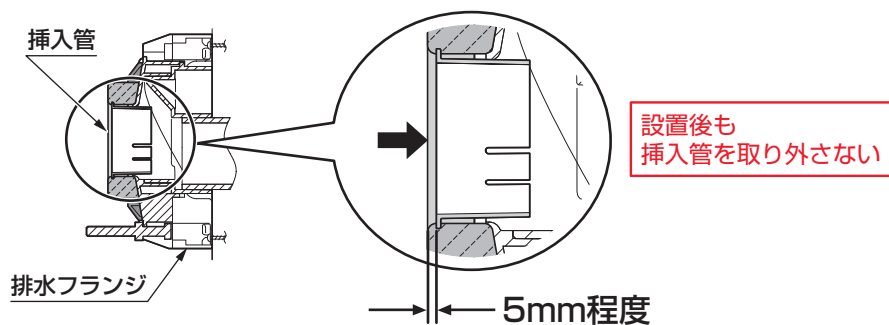
ポイント② 挿入管先端(切り欠きがある方)を排水フランジに差し込む。

ポイント④ 必ず外周リムの内側にPシールAを収めるようにする。



6 PシールAの取り付け(つづき)

②挿入管を排水フランジ側に5mm程度差し込み、挿入管を排水フランジの中に入れる。



〈正しく挿入管が押し込まれていない場合〉

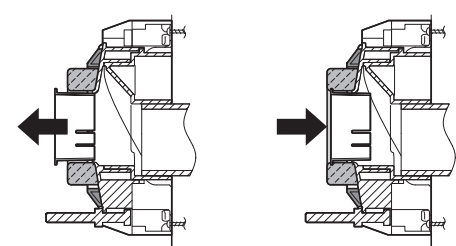
右記、【調整方法】を行ってください。



正しく押し込まれていない一例

【調整方法】

- ①挿入管のみ引き出す ②穴に入るように調整しながら押し込む



△注意



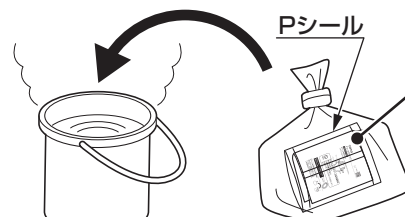
- ・設置後も挿入管を取り外さない
- ・シール面は水分を含んだタオルでふかない
(水分の湿りによるPシール剥がれ防止のため)



- ・シール面は必ずふき取る
(水分(結露水など)付着や、ごみ付着を防止するため)
- ・PシールAの継ぎ目は上側にする
水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

【Pシールがかたい場合は、温めて使用する】

■お湯で温める場合



※40℃程度のお湯

注意

Pシールの袋には通気用の穴があります。
必ず別の袋に入れて温めてください。

※温めることにより、施工がしやすくなります。

7 小便器の取り付け

※小便器の取り付け手順は小便器同梱の施工説明書をご確認ください。

**必ず
実施**

小便器をバックハンガーにかける直前に陶器シール面の結露による水分を除去する

△注意

小便器を低温環境下から室内に納入した際、陶器シール面が結露により湿っていると、Pシールがはがれ水漏れするおそれがあります。

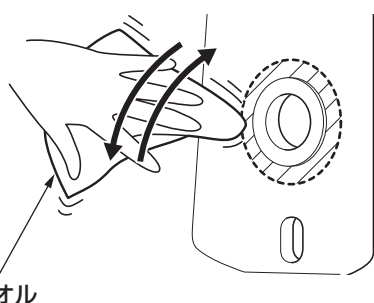
次の①または、②の要領で、陶器シール面の水分除去

① 乾いたタオルで水分をふき取る

ポイント!

小便器温度と、室内温度が、同温度になるように放置後、陶器シール面の水分を乾いたタオルでふき取る

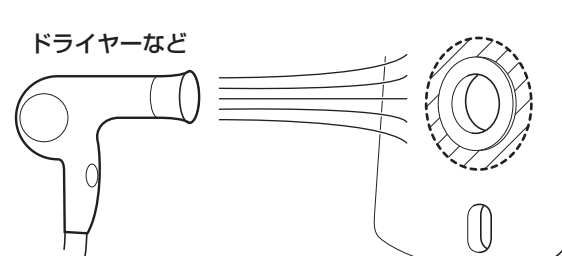
乾いたタオル
※きれいなタオル



② 十分に乾燥させる

■乾燥方法の例

ドライヤーなど

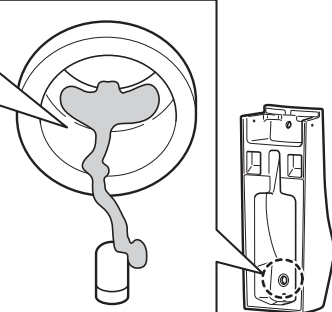


フランジのみ交換する場合は①～③の手順を行う

- ①陶器シール面の古いPシールが残らないように取り除く
- ②排水口の中(奥)にたまった水をタオルでふき取る

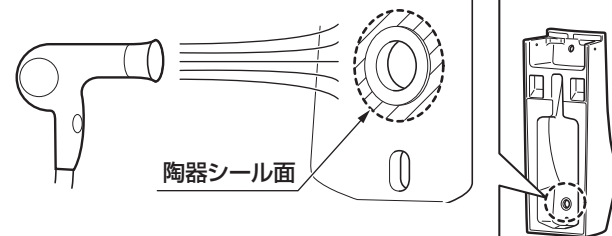
△注意

小便器を傾けると、陶器シール面に残水が垂れ、Pシールの接着不良になります。



- ③陶器シール面の水分による湿りを十分に乾燥(ドライヤーなど)させる

■乾燥方法の例(ドライヤーなど)



△注意



- ・設置後も挿入管を取り外さない
- ・シール面は水分を含んだタオルでふかない
(水分の湿りによるPシール剥がれ防止のため)



- ・排水口の中(奥)にたまった水をタオルでふき取る
- ・陶器シール面の湿りを十分に乾燥させる
(水分の湿りによるPシール剥がれ防止のため)
- ・古いPシールが残らないように取り除く

上記を実施しないと、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

小便器取り付け時のご注意

小便器取り付け状態の確認

小便器と壁の間にすき間がないか、ガタつきがないか確認してください。

小便器と壁の間にすき間やガタつきがある場合は、**小便器取り付けの調整方法**を行ってください。

動画を見る

小便器取り付けの調整方法

https://search.toto.jp/contents/navi/construction/wl/move/202107_us900_toritsukechousei.htm

